



小さな私の先輩

鹿児島県湧水町企画課国際交流員

李 美
リ メイ

私は運動が苦手です。そんな私が日本で空手を始めて1年になります。このことを家族に話すと笑われました。というのも、中国人は運動選手を目指す人以外は、普段は特別な運動をしないからです。実は、私が空手を始めたきっかけは、運動不足で日に日に出てくるお腹を何とかしないといけないと思い、ダイエットの為に始めたことなのです。

まずはじめに、多くのスポーツがある中で、なぜ空手を選んだのかということについて少し説明したいと思います。私は今地元の公民館で小学生を対象に中国語を教えているのですが、講義が終わる頃になると、いつも隣の部屋から「えい、えい」と気合の入った力強い掛け声が聞こえてきます。その声に引かれ、ドアをそっと開けてみると、空手着の子どもたちが真剣な顔で素早く動いていました。その元気の良さにちょっと圧倒された私に、先生が気付いたようで「どうぞ、入っても良いよ！」と声を掛けてくれました。それから、私の空手奮闘記が始まりました。

私と同じ時期に入門したのは北海道からの転校生、小学4年生の宏紀君です。小太りの体に、デビット・ベッカムの髪型、ぽちゃぽちゃしているほっぺたが特徴的な可愛い男の子です。宏紀君は不思議なことに、小学校で会った時は必ず「李先生」と私を呼んでくれていたのに、空手教室では、「李さん」と呼びます。まるで、「ここでは僕が先輩だよ！」と教えてくれているようです。

「小学4年生には負けないぞ！」という意気込

みで、スタートを切った私ですが、彼の後を追って行くのに必死で、運動神経が鈍い自分のコンプレックスと向き合う辛い日々でした。しかし、汗をたらたら流しながらも決して諦めない宏紀君の姿に影響を受け、私も諦めずに頑張ろうと思いました。それでも時々、仕事や飲み会で空手教室を休むと、「李さん、先週は新しいのを習ったよ。」と自慢されることもあって、彼は私の消え失せる学習意欲に火をつけてくれる良きライバルであり、原動力でもあります。

空手を始めて半年過ぎた頃、私は1年半ぶりに中国の実家に一時帰国することになりました。帰国をきっかけに日本に戻ってきてからも空手教室を長い間休んでしまいました。そんなある日、宏紀君にばったり会い、「いつから空手に来るの？青帯を先にとっちゃったよ！」と言われました。そして、突然「来年、転校するよ」と告げられま



空手の先輩たち宜しくね！



ラクラク中国語クラブ

した。せっかく仲良くなったのに、北海道に帰ってしまうのかと悲しくなりました。この子が転校するまでに、一杯一緒に遊ぼうと思いました。

そんなある日、久しぶりに空手教室に行ったときに、宏紀君と対戦をさせられました。「組み手の練習。よーい、初め！」という先生の掛け声に合わせ戦いが始まり、型を忘れてうろろうしている私に、宏紀君は情け容赦もなく強くぶつかってきました。休憩時には「北海道は寒いよ、雪がこんなに積もるよ！」と北海道を良く知らない私に色々教えてくれたり、クラスの好きな女の子への片思いの悲しい恋話も聞かせてくれたりしました。

そんな日々が過ぎ4月になりました。しかし、宏紀君がまた空手教室に現れたので、彼に聞いてみると、「今年は転校をしない」というのです。心配して損をしたような気もしましたが、今年も一緒に空手を習うことができ、本当に嬉しく思いました。

空手を始める前の私は、日本のクラブ活動について違和感を覚えていました。せっかくネイティブの私が中国語を教えているのに、なぜ受講者が集まらないのか、疑問に思いました。特技として伸ばせるものでなければ、クラブ活動に費やす時間を勉強や外国語の習得に回したほうが良いと、個人的にはそのように感じていました。

しかし、空手教室に通うことでクラブ活動は、ただのトレーニングの場ではないことを知りました。そこでは、先輩と後輩という日本の厳しい上下関係を習い、仲間と競争しながらも皆で助け合



中国語クラブの生徒たちと

い、ともに進歩するチームワーク精神を養うことができます。そこなら、外国人だと敬遠されることもなく、皆と仲良くできます。1年間通い続けた空手教室、ライバルの宏紀君、鹿児島弁丸出しの先生、分かりやすい日本語で教えてくれる先輩たち、皆は私にとってかけがえのない仲間です。今は外国語の勉強ももちろん重要ですが、クラブ活動も無くてはならない、大事なものだと思っています。

日本では、学校が終わるとクラブ活動には行かず、家に帰る児童のことを「帰宅部」というそうです。そうすると、私の学生時代は「帰宅部エース」だったかもしれません。でも、今は違います。まだ白帯ではありますが、青帯、茶帯、黒帯（初段）を目指して本気で頑張っています。これからも先輩の宏紀君に負けないように、頑張りたいと思います。いや、その前にダイエットで頑張らないといけませんね。宏紀先輩、宜しくね！



中国吉林省の出身、平成21年から鹿児島県湧水町で国際交流員として勤務し、町の国際交流推進事業に従事しています。国際交流員の仕事を終えてからは日本の大学院に進学し、日本語教育の勉強を続け、将来は国際交流員の経験を活かし、引き続き中国と日本の架け橋の仕事に付くことが目標です。趣味は、日本各地を旅行することです。

李 美

我的小前辈

李美

不擅长做运动的我在日本学空手道已经一年了。和家人提起这件事情竟被他们调侃了一番。因为在中国，如果不想做专业选手的话，一般人不会学这种特殊的运动。而我学空手道却纯粹是为了减肚子上的肥肉。

在那么多运动项目中选择空手道是有原因的。我现在在涌水町的文化会馆教小学生汉语。当我的汉语课快要结束的时候经常会听到从隔壁的教室传来的“嘿！嘿！”的强有力的呐喊声。有一次我被那声音吸引住，悄悄地推开了教室门往里看，发现里面有好几个身穿空手道服的小朋友正在认真严肃地练习空手道。我完全被那气势惊呆了，空手道老师发现呆呆站在门外的我就和我打招呼：“门外那位，请进！”，从那天起我的空手道奋斗记正式开始了。

和我差不多同一时期拜师学艺的是从北海道转学过来的小学四年级学生宏纪。他的身材胖乎乎，留着贝克汉姆式的时尚发型，脸蛋肉乎乎的，是一个非常可爱的小男孩。宏纪很有意思，这小子在学校碰见我叫我李老师，但在空手道教室则叫我小李。像在隐隐约约地暗示我“在这里我才是前辈哦”。

我心想“可不能输给小学四年级的小毛孩”，便干劲十足地开始了空手道学习。但我越学越跟不上宏纪的进度。每天都在跟自己又差又弱的运动细胞作斗争。但是宏纪呢，练得汗流满面再苦再累也从不投降。受他的干劲影响我也决定不放弃要坚持下去。偶尔我会因为应酬而旷课，那时这小家伙总会跑到我跟前耀武扬威地说：“小李，我昨天又学了新的拳法了呢”笑眯眯的像是向我宣战。因此，可以说他既是我的竞争对手也是让我奋发练习的原动力。

学习空手道刚满半年时，我决定暂时休假回国，已经一年半之久没回祖国了。因为回国落了很多课，回到日本后又旷了很长时间课。那时我又碰巧遇上了宏纪，他对我说：“你什么时候来上课啊？我考到蓝腰带了！”然后突然告诉我他明年要转学。我好不容易结识这么一个朋友，结果他又要回到北海道，听完后我非常伤心。

我觉得，趁他还没转学一定要好好地陪他玩。隔了好久才去空手道教室的我当天就被老师安排和宏纪单打决斗。“一拜，开始！”老师的号令声一下，宏纪就马上攻击过来。忘掉拳法的我愣在那里不知该怎么反击，宏纪却毫不留情地使劲打了过来。课间休息时他会和我聊天告诉我很多关于我不太熟悉的北海道的情况“北海道很冷哦，积雪会堆得这么高！”，也会讲一些他对班级女生的单恋爱情故事。

每天过得很快，转眼间已经到了4月份。可是宏纪他竟然出现在空手道教室。我感到奇怪就问了他，他居然告诉我“我今年不转学了！”。可怜白为他操心了。但我很高兴今年也能和宏纪一起学空手道。

但在学空手道以前，我对日本的课外活动抱有过很多疑问。涌水町特意开办汉语教室，给学生们营造了从母语话者那里学习汉语的环境，但是学生作为实际受惠者却并不珍惜这种学习环境。我很不解，为什么我的汉语教室会经常凑不齐人数。我个人认为如果不能作为特长来培养，把那些花费在课外集体活动上的时间用在功课和外语的学习上，效果会更好。一开始只是为了减肥去学空手道，后来才明白空手道不仅锻炼身体，还让我有机会耳濡目染日本的上下级观念，使我和队友们可以互相竞争却也互帮互助共同进步，培养了我的集体观念。在那里不会因为自己是外国人而被敬而远之。和大家相处得很开心。坚持一年的空手道教室，那里有我的竞争对手宏纪，满口鹿儿岛腔的师傅，挑好懂的日语教我拳法的前辈们，大家都是我最珍贵的伙伴。后来我开始认为外语学习当然很重要，但课外集体活动也是不可缺少的重要的活动。

在日本管放学后不参加课外活动直接回家的学生叫“回家社团”。那么我的学生时代可以说是回家社团的老大。但现在不同。虽然我现在还是白色腰带，但我的目标是考到蓝色腰带，茶色腰带，初段，为此我正在努力学空手道。为了不输给宏纪我可要加油了。哎呀，在那之前我要先在减肥上下功夫呢！宏纪前辈请多关照哦！

中国語